

# 逢いたいときにいつでも逢える名画の館

1989年4月に桐生市を一望する水道山の中腹に開館した大川美術館のコレクションは、桐生市出身の実業家 大川栄二(1924-2008)が40年にわたり収集した約1200点の作品を根幹としています。

収蔵作品は、現在約7500点をかぞえ、松本竣介、野田英夫を中心とした日本近現代の美術を展示しております。また、西洋絵画では、ピカソ、ルオーをはじめ、20世紀アメリカを代表するベン・シャーンらを中心に約600点を収蔵。また、日本画約100点や世界的なテキスタイルプランナー新井淳一のテキスタイルなど、多岐にわたります。



外観

## 『メンバーシップ制度』

当館では、多くの皆さまに大川美術館運営の一翼を担っていただくことを目的に、メンバーシップ制度を設けご支援をお願いしております。

○PMO(個人会員)年会費20,000円

○BMO(法人会員)年会費50,000円

※詳しくは下記の当館公式ホームページをご覧ください。

## 『サポーター・パスポート、フレンドシップ・パスポートを販売中です!』

大川美術館ではお得にご入館いただける年間パスポートの販売を始めました。みなさまのパスポートご利用が大川美術館に向けたとても力強い応援になります。どうぞご利用いただけますようよろしくお願い申し上げます。

○サポーター・パスポート 3,200円  
:発行日から1年間有効。期間中何回でも来館いただけます

○フレンドシップ・パスポート 3,600円  
:サポーター・パスポートと同様に、1年間何回でも来館いただけるほか年に4回程度企画展のご案内や大川美術館の広報紙「ガス燈」を郵送いたします。

\*どちらのパスポートも、ご購入の方には大川美術館カフェでご利用いただけるお飲み物券を2枚進呈いたします。

表紙:石内都《From Kiryu》2024年 作家蔵

## ■ご利用のご案内

開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(祝日、振り替え休日の場合開館、翌火曜日休館)

※このほかに、下記展示替えのための休館日があります。なお、休館日は都合により変更になる場合がございます。当館公式ホームページにてご確認ください。

2024年4月1日(月)~4月26日(金)、7月1日(月)~8月9日(金)、  
※改修工事に伴い、2024年12月16日(月)から2025年4月末(予定)まで  
全館休館いたします。

入館料 (企画展・コレクション展共通)

一般1,000円 高・大生600円 小・中生300円

※20名以上の団体20%割引。

※障がい者手帳等をお持ちの方、および付き添いの方1名は50%割引。

※65歳以上の方は20%割引。

※小・中学生を同伴する保護者の方は2名まで50%割引。

※毎月第一土曜日(桐生市内・桐生天満宮古民具骨董市および買場紗綾市開催日)は入館料20%割引。

※織物参考館“紫”入館券をお持ちの方は20%割引。

※リピーター割引

同じ企画展の会期中、チケット半券をご提示で、2回目以降の入館料半額。

※割引の併用はできませんのでご了承ください。

施設案内 ミュージアムショップ/カフェ/図書室

## ■交通のご案内

電車 ・東武浅草駅より、赤城行き「特急りょうもう号」で新桐生駅まで100分(北千住駅より約90分)。駅よりタクシーで約10分。

※なお、沿線の相老駅からは、わたらせ渓谷鉄道[桐生駅で下車]に、終点の赤城駅からは、上毛電気鉄道[西桐生駅で下車]への接続があります。事前に時刻表を確認のうえご利用ください。

・JR桐生駅より、徒歩約15分。タクシーで約5分。

・上毛電気鉄道西桐生駅より、徒歩約10分。※途中、急な坂および階段があります。

車 ・北関東自動車道:太田・藪塚I.C.または太田・桐生I.C.より約25分。

・東北自動車道:佐野・藤岡I.C.より約60分。



\*JR桐生駅、上毛電気鉄道西桐生駅方面より徒歩の方には、幼稚園の裏手から●-●の部分に近道がございます。(途中急な坂および階段あり)

公益財団法人 大川美術館  
〒376-0043 群馬県桐生市小曾根町3-69(水道山中腹)  
TEL:0277-46-3300 FAX:0277-46-3350  
E-mail:okawa-m@theia.ocn.ne.jp

URL: <http://www.okawamuseum.jp>



# OKAWA MUSEUM OF ART

## EXHIBITION SCHEDULE



## 展示のご案内

2024.4 - 2025.3



大川美術館



2024年4月27日(土)～6月30日(日)

## 大川美術館コレクションを中心に The 日本・画

日本の近代化のなかで造られた絵画である「日本画」は、それまでの日本の絵画を「伝統」として意識しながら継承し、同時に「近代」という時代にふさわしい表現を模索してきました。しかし一方で、1990年代以降、「日本画」とはどのような絵画だったのか、また新しい「日本画」は何か、という問いかけも盛んに続けられています。本展では、コレクションから精選した近代の「日本画」をご覧いただき、さらに現代の日本の絵画として見直してみようとする試みです。



伊東深水《京茶碗》1950年頃

2024年8月10日(土)～12月15日(日)

## 石内都 Step Through Time

国内外で活躍を続ける写真家・石内都。その活動の拠点を横浜から生地桐生に移し6年が経過しました。本展では、デビュー作《絶唱、横須賀ストーリー》に先立つ1976年、桐生周辺の風景がモチーフとなった《はるかなる間》から、2007年にスタートし独自のまなざしで撮り続けている《ひろしま》の新作をはじめとする



石内都《Mother's#57》2005年 作家蔵

代表的なシリーズに、ヴィンテージプリントを多数加えた構成でご紹介します。また、桐生の街で撮りためた《From Kiryu》を初公開します。当館の全展示室にわたり、石内都が向き合ってきた時間の層を旅します。



石内都《From Kiryu》2024年 作家蔵

大川美術館のコレクションによる展覧会が各地の美術館にて開催されますので、どうぞご覧ください。※2024年12月16日(月)から2025年4月末(予定)までは改修工事に伴い、全館休館いたします。

2024年6月9日(日)～8月18日(日)

宇都宮美術館

## 大川美術館コレクションによる 20世紀アートセレクション

ピカソ、ベン・シャーンからポップ・アートまで

大川美術館が所蔵する20世紀アートのコレクションから、ユトリロ、ピカソ、ベン・シャーン、ウォーホルらの逸品を展示し20世紀美術の多様な芸術の様相をご紹介します。個人コレクションにみる20世紀アートの名品の数々をお楽しみください。



モーリス・ユトリロ  
《花》1940年



美術館公式サイトはこちら

2024年7月20日(土)～9月8日(日)

碧南市藤井達吉現代美術館

## 松本竣介《街》と昭和モダン

—糖業協会と大川美術館のコレクションによる—

公益社団法人糖業協会が所蔵する藤島武二、梅原龍三郎、安井曾太郎、東郷青児らの優品による近代洋画コレクションと、大川美術館の松本竣介《街》(1938年)を起点とした両コレクションを、清らかなイメージを求めた「モダン」の視点からとらえます。



松本竣介《街》  
1938年



美術館公式サイトはこちら

2025年1月4日(土)～4月6日(日)(予定)

アサヒグループ大山崎山荘美術館(京都府)

## 松本竣介 デッサン展(仮称)



2023年、松本竣介生誕100年を記念し、大川美術館にて開催された展覧会が、京都へ巡回します。松本竣介が描きのこした多彩なデッサンの粋をご覧ください。



美術館公式サイトはこちら

アサヒグループ大山崎山荘美術館 本館外観